

番号	氏名	抱負
071	越智 茂博	自分自身まだまだ勉強中の身ですが、関東支部会員の声が本会本部に届けられるように、頑張ります。また、本部および関東支部の活動をお手伝いしながら、少しでも多くの会員の皆様が研究発表できるような学会を目指し、新入会員が増え今まで以上に活性化した学会となる、一助になれば幸いです。若輩者ですが、よろしく申し上げます。
072	小野口 昌久	金沢大学の小野口と申します。昨今、核医学検査の投与量など、画質の施設間差が指摘されています。その原因として「標準化が重要な課題で、卒後教育の徹底」が重要と分析しています。一方、RI内用療法(治療)分野でも取り扱いや被ばく、防護に関するガイドラインが作成され、受講を義務化しています。今後、学会をベースとした卒後教育を通し、技師の育成と同時に技術の向上を目指していければと思っております。宜しく願い申し上げます。
073	小野寺 崇	現在の医療において放射線技術が担っている役割は非常に大きく、当学会の持つ専門性は非常に重要であると考えます。会員が積極的に学術活動に参加できる環境を整えることで優秀な研究成果が多く発表されれば、医療のよりよい変化はさらに促進されます。私は東北支部内の学術活動に関する環境整備に関し微力ではありますが貢献したいと考えています。若輩者ではありますが、どうぞよろしく願い申し上げます。
074	風間 清子	新潟県や東北地域(新潟も含む)の研究会に携わり、これらの活動を通し、参加された方々の知識と意識の向上に微力ですが寄与できている手応えを感じています。この経験をもとに、これから頑張りたい人、特に女性の頑張りたい気持ちを応援・支援したいと思っています。放射線技術学発展に地方または女性から貢献できるようにお手伝いしたいと思ひ立候補いたします。よろしく願いいたします。
075	檜山 和幸	
076	片渕 哲朗	本学会は放射線技師最大の学術団体であり、これまで多くの実績を残しています。これは諸先輩方のお陰ですが、私自身この学会で育てていただき、多くのことを学びました。これからは若い人材の成長を手助けするような学会として、進歩していく必要があると思われれます。そのためには、放射線技師全体の学術レベルの向上を目指す必要があります。これまでの私の知識と経験を生かし、学会の発展に寄与したいと考えています。
077	加藤 京一	私は日本放射線技術学会会員として30年間お世話になって参りました。本学会におきましては、多くのご教授をいただき、また自身の研究におきましても発表のみならず、フォーラムでの講演、座長、そして論文報告、また出版もお手伝いさせていただいて参りました。これらの実績、業績、経験を生かし、お世話になったJSRTの運営に代議員として参加させていただきたく存じます。どうぞ宜しく願い致します。
078	加藤 豊幸	病院に勤務する診療放射線技師の立場として、施設や職種を超えたメンバーでの研究の促進が非常に重要と考えています。実際に業務を行う際のエビデンスの確立のため、放射線技術学領域における基礎並びに臨床応用に関する研究促進、並びにその交流を図る手助けができればと考えております。また、学会の国際化についても必要性を理解しており、そのための教育や情報発信等について、積極的に進めていきたいと考えております。
079	加藤 英樹	私は学会で進める国際化の意義は理解できています。「日本の放射線技術学のレベルは世界的に見て高い」と以前からよく耳にしますが、今後、海外に向けた研究内容の発信が更に求められます。JRC2016においてスライド英語化や、3割を上回る英語口述発表を目の当たりにし、私は今後のグローバル化に尽力したいと思いました。そのことが日本のみならず世界中の「医療を受ける側の人々」の利益につながると考えるからです。
080	加藤 英幸	